

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 SIL札幌日本語学校

1. 事業の趣旨・目的

市内在住の外国人の子供たちは、来日したばかりの頃は、言葉がわからなく、小学校や中学校でも孤立しがちである。札幌市内でもボランティアが取り出し授業をしているが、より集中的な教室を設定することで、日本の生活習慣を踏まえての日本語を指導し、学習の手助けをなし、よりよい生活環境を作ることを目指す。又同時間帯に設定する両親のための日本語クラスでも、日本語が理解できず、孤立しがちなことが多いと予想されるので、それを少しでも解消すべく日本語を学び、お互いの国の文化を理解しコミュニティに溶け込めるようになることを目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10月7日 (金) 13:00～ 16:00	SIL札幌日本語学校	島治美 外山静江 西山順子 Petia佐々木 木本みゆき	・講座開講の方針 ・実施内容・回数 の検討 日時、会場選定、 募集方法検討 ・募集チラシ作成、 募集日程、周知方 法について	講座の方針、後援者、会 場、講座内容の確認、及び 検討をした。 募集チラシの構成や、文 面、追加の翻訳などについ て検討し、配布のしかた、 配布先について話し合う。
11月24日 (木) 14:00～ 18:00	SIL札幌日本語学校	島治美 外山静江 西山順子 Petia佐々木 木本みゆき	・募集経過報告・講 座日程についての 検討 ・講座担当者割り 当て検討 ・会場についての 再検討	募集経過報告があり、それ による開講の日程や会場の 確定。 外国人児童の多く在学す る小学校から、冬休み中の 講座開講について打診が あり、日時、担当者などの 詳細を検討する。

12月7日 (土) 10:00~ 13:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 西山順子 鈴木 博子 木本みゆき	・クラスカリキュラム ・指導内容に関して ・講座担当者編成	講座の内容が妥当かどうか、受講生のレベルとニーズの把握及びその報告。小学校での冬休み中の講座開講のため担当者などの詳細を確定する。
1月13日 (金) 13:00~ 16:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 西山順子 林 真知子 木本みゆき	・全講座に関する問題点など ・次年度へ向けての改善点など(募集方法も含め)	全講座の報告。教材、開講時間、開講場所、募集方法などの再検討が必要かどうか。冬季故、外出を好まない暖かい国々の出身者などにどのように働きかけるか。ボランティア団体とのより一層の連携のために今後、何ができるかなど話し合った。

【写真】



3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 : 「親子のための生活日本語
: 日本語一緒に勉強しようー子供のクラスと両親のクラス」
- (2) 開催場所 : 札幌市立幌北小学校／札幌市民ホール／北海道立道民活動センター
- (3) 学習目標: コミュニケーションができる日本語を学ぶと同時に学習面での進歩を目指す。又、同時時間帯に設定する両親のための日本語クラスでは、日常生活

で知っておくべき事柄、学校に関わる日本語や、緊急時にどのように対処すべきかを学び、親子ともより快適な生活ができるよう、学習をなす。

(4) 使用した教材・リソース :『伝え合う言葉・中学国語3』 『みんなの日本語』

『漢字大好き』・ 公文参考書の国語

オリジナル教材 各児童の冬休みのワーク

(5) 受講者の募集方法 ・道内各市町村への募集要項配布・広報誌掲載

・SIL 札幌日本語学校ウェブサイト掲載。

・道内日本語ボランティア教室への周知

(6) 受講者の総数 14 人

出身・国籍別内訳 (モンゴル 3人, ネパール 2人, 中国 2人、フィリピン2人、 インドネシア 2人、ボリビア 3人)

(7) 開催時間数(回数) 63 時間 (全 14 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	11月27日 9:00 ~12:00	3時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者2人	小学生:『ひろこさんの日本語』『小学校五年生国語教科書』『漢字だいすき』を使用し、国語力把握に努める。 親:来日した経緯、日常生活に関する話からニーズを探る。
②	12月11日 9:00 ~12:00	3時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者2人	小学生:3年生の漢字、読み物、語彙を増やす(しりとり)、国語ワークブック 親:札幌市ごみのパンフレットを使用し、語彙、ルールを学ぶ。 地震など災害時の対応について
③	12月18日 9:00 ~12:00	3時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者2人	小学生:3年生の漢字『漢字だいすき』、読み物、語彙を増やす(しりとり)、国語ワークブック 親:病院の問診票を利用し、語彙を増やす。症状、希望等を正し

						く伝えられるように練習する
④	12月26日 9:00～12:00	3時間	1人	中国・中国語(1人)	教授者1人	小学生：・テキスト『漢字大好き』 を使用し漢字学習 ・国語の教科書を使い音読の練習
⑤	12月27日 9:00～12:00	3時間	2人	中国・中国語(1人) フィリピン・英語(1人)	教授者2人	・小学生に対して：友人に手紙を 書く、学校の宿題(社会、算数) 漢字学習 ・中学生に対して国語教科書を使 用し期末テストのための復習 (漢文)
⑥	12月28日 9:00～12:00	3時間	2人	中国・中国語(1人) フィリピン・英語(1人)	教授者2人	・小学生をレベル別にわけ個別に、 漢字学習、冬休みのワークサポ ート、年賀状の書き方 ・アクティビティを通して学習者 間の交流 ・中学生に対して、期末テストの ための復習(古文) ・高校入試のための面接指導など ・親に対して：初歩の日本語、自 己紹介、挨拶、「～は～です」な ど
		3時間	5人	モンゴル・モンゴル語(2 人)ネパール・ネパール 語(2人)インドネシ ア・インドネシア語(1 人)	教授者3人 補助者1人	
⑦	1月4日 9:00～12:00	3時間	2人	中国・中国語(1人) フィリピン・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	・小学生をレベル別にわけ個別に、 漢字学習、冬休みのワークサポ ート ・アクティビティを通して学習者 間での交流 ・中学生に対して、期末テストの ための復習(古文) ・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文 法学習、日常会話 ・親に対しては、「～は、～です」 文型を使つての会話、家族の名 称、形容詞
		3時間	5人	モンゴル・モンゴル語(2 人)ネパール・ネパール 語(2人)インドネシ ア・インドネシア語(1 人)	教授者4人 補助者1人	
⑧	1月5日 9:00～12:00	3時間	2人	中国・中国語(1人) フィリピン・英語(1人)	教授者2人	・漢字のゲームなどを通して漢字 の定着、冬休みのワークサポー ト(社会)

						<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対して、期末テストのための復習（古文）
⑨	1月6日 9:00～12:00	3時間	2人	中国・中国語（1人）モンゴル・フィリピン・英語（1人）	教授者1人 補助者1人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生をレベル別にわけ個別に、漢字学習、冬休みのワークサポート ・アクティビティを通して学習者間での交流 ・中学生に対して、期末テストのための復習（現国）・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文法学習、日常会話 ・親：「～は、～です」文型を使ったの会話、家族の名称
		3時間	6人	モンゴル・モンゴル語（2人）ネパール・ネパール語（2人）インドネシア・インドネシア語（2人）	教授者4人 補助者1人	
⑩	1月9日 9:00～12:00	3時間	4人	中国・中国語（1人）フィリピン・英語（1人）ボリビア スペイン語（2人）	教授者3人	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みのワークサポート（理科、算数）、カタカナ、文を作る練習 ・中学生に対して、期末テストのための復習（文法） ・初参加の日本語未習児にひらがな、あいさつ
⑪	1月10日 9:00～12:00	3時間	4人	中国・中国語（1人）ボリビア・スペイン語（2人）フィリピン・英語（1人）	教授者3人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生をレベル別にわけ個別に、ひらがな、文型、漢字学習、冬休みのワークなどを指導 ・アクティビティを通して学習者間での交流 ・中学生に対して、期末テストのための復習（古文） ・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文法学習、作文指導、読解
		3時間	3人	モンゴル語（2人）インドネシア・インドネシア語（1人）	教授者3人	
⑫	1月11日 9:00～12:00	3時間	4人	中国・中国語（1人）ボリビア・スペイン語（2人）フィリピン・英語（1人）	教授者3人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生をレベル別にわけ個別に、ひらがな、文型、漢字学習、冬休みのワーク ・アクティビティを通して学習者間での交流

		3 時間	3 人	モンゴル・モンゴル語 (2 人) インドネシア・インドネシア語 (1 人)	教授者 3 人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対して、期末テストのための復習 (文法)・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文法日常会話 ・乗り物、国旗、カルタを使って語彙の定着
⑬	1 月 12 日 9:00 ~12:00	3 時間	4 人	中国・中国語 (1 人) フィリピン・英語 (1 人) ボリビア・スペイン語 (2 人)	教授者 3 人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生をレベル別にわけ個別に、ひらがな、文型、漢字学習、冬休みのワーク ・アクティビティを通して学習者間での交流
		3 時間	3 人	モンゴル・モンゴル語 (2 人) インドネシア・インドネシア語 (1 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対して、期末テストのための復習 (文法)・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文法、日常会話
⑭	1 月 13 日 9:00 ~12:00	3 時間	4 人	中国・中国語 (1 人) ボリビア・スペイン語 (2 人) フィリピン・英語 (1 人)	教授者 3 人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生をレベル別にわけ個別に、ひらがな、文型、漢字学習、冬休みのワーク ・基本動詞の指導 ・アクティビティを通して学習者間での交流
		3 時間	3 人	モンゴル・モンゴル語 (2 人) インドネシア・インドネシア語 (1 人)	教授者 3 人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対して、期末テストのための復習 (現国、文法) ・『みんなの日本語Ⅱ』を使用し文法、日常会話練習チェック

(9) 特徴的な授業風景 (2~3回分)

親子に対する授業

1月4日、小学1年の学習者と、母親の授業では、親子のレベルが違うため、別々に行ったが、同じ教室で、すぐそばで勉強しているという安心感が見られた。例えば、親がわからない時は、子供が通訳をして助けたり、また、カルタとりでは、お互いに助け合っていた。この親子の様子から、授業の場でありながら、別な意味でも安心できる場を提供できたのではないかと思う。

親に対する授業

親に対しては、3. 11があった後なので、緊急時の日本語を指導したが、例えば、病気表現、災害時の日本語、及び対処法は、とても役に立つといわれた。

このように、非常時の日本語、また、生活に密着した日本語は、ある程度日本語が使える学習者にも大いに必要だと感じた。又日本語未習者は、生活を中心にしているため、日本語学習に割く時間がないようであった。子どもと一緒に学校で正式に学べるというのは大変安心感もあり楽しそうであった。

今年、高校受験の中学3年生に対する授業

学習者が期末試験の範囲の復習サポートを希望。それに対して、漢文、古文、現代国語、文法などを指導。

学習者は、きれいにノートをとっていたが、内容は理解していなかったため、ノートの復習も含めマンツーマンにて指導。漢文のルールなど、また古文では、「奥の細道」の読解や、言葉の説明、時代背景など、普段の授業では聞けない指導をすることによって、かなりの習熟が見られた。また、文法も、学習者が英語圏ということもあり、英語を対照させながら、説明を行うことにより、難解な文法用語に対しても理解が早かった。通常の授業では、なかなかついていけない学習者に対して、集中的に、また、マンツーマンで指導することができた。

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

普段の教室での自然な会話により、学習面だけではなく、教授者と学習者とのコミュニケーションも、円滑に行われていた。

又、アクティビティの中で、年齢、国籍が違う学習者が、自然に日本語を媒介として、交流を深めることができた。

(2) 学習者の習得状況

学校での授業において、個別の指導が少ないことにより、授業の理解に遅れが見られたが、今回、冬休みの宿題ワーク、教科書などを個別に、また、丁寧に指導実施ができ、学校の授業の中で理解できなかった部分を補うことができた。

日本語未習児に対する指導では、児童が積極的に参加し、ひらがな、あいさつの他、簡単な動詞などを、理解できるようになった。

親はある程度コミュニケーションができると、詳細な情報が得られないままでも、日常生活にはそれほど不自由を感じないようであり、日本語をもっと学ぼうという意識は、漠然としたものであった。そのため、指導者側から、非日常的な場面などの日本語をどんどん提示していった。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

日本語を提供する場として、小学校や、ボランティアのほかに、在日外国人に対するサポートができ、また、日本語を勉強するのが楽しいという場を作ることができた。全員がありのままで受け入れられるという居場所を感じてくれたようであった。次回の開講を楽しみにしており、学習という面だけではないサポートができたことも成果だと思われる。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

小学校、ボランティアなどとの連携により、日本語学習が必要な人たちの存在とそのニーズを把握できたことが成果といえる。また、このような教室を開催することにより、コミュニティの中だけ、または、コミュニティにも、所属していない人たちが、気軽に日本語にふれる場があることを周知できた。

(5) 改善点, 今後の課題について

- ① 現状
- ・学習者の会話面での向上は早いと思われるが、読み書きなどの能力の遅れが目立つ。このままでは、中学、高校への進学後、授業参加に心配がある。
 - ・講座会場は、市内中心部を設定したが、生活範囲が自宅近辺のみの外国人には移動が不慣れな故、又、それぞれが健康、仕事などの不都合が生じたため、親の参加が少なくなった。

② 今後の課題

- ・日本語が出来ないために、学校や、地域での情報を得ることができずに、いろいろな不利益を被っている保護者、また孤立している保護者に対して、より周知徹底をはかり1人でも多くの人に参加してもらえるようなネットワークづくりが必要である。特にイニシアティブをとれる公的機関、小中学校関係者の協力が必要であると思われる。
- ・普段の授業で、理解できないまま、卒業し、高校、中学で、ただ、教室にいるだけの学習者が多い。会話も必要であるが、学習言語の習得も、また読み書きの能力も必要なのでその指導に時間をより割きたい。

③ 今後の活動予定, 展望

- ・これからも、情報を収集できずに孤立しがちな両親に対して、今回のような日本語の教室を通して、生活に必要な日本語を提供し、日本人社会との橋渡しになれるような活動をしていく。
- ・また、それぞれのニーズを把握し、それに基づいた日本語の教室を開催していきたい。
- ・学習者のための、学習言語の習得にも力を入れていく。